

清水 行男 議員（一問一答方式） 行政の健全運営のため、経営改革を推進

水道料金担当業務の包括的な委託を検討

問 厳しい財政運営の中、市民サービスを低下させずに健全な行政を進めるためには経営改革の推進が重要であるが、手法の一つである指定管理者制度ではどのような効果が出ているか。
答 16年度からの5年間で1億4,000万円の経費縮減と人員削減の効果があった。

問 現在、水道事業は自治体の先端的な事業ではなくなりつつあり、13年ぶりに赤字を出した本市においても経営方法の見直しが必要と思うがどうか。
答 公営企業会計への移行には資産調査やシステム開発にかかる経費とともに相当な準備期間を要するため、豊田市や岡崎市などの導入経過を踏まえ、適切かつ効率的な移行を検討する。

山本 シモ子 議員（一括質問一括答弁方式） 市民の暮らしを応援する施策を

様々な機関と連携を図りながら安心できる施策を進める

問 公共施設連絡バスについて、車いすの人が安心して乗降できるようにリフト付きのバスや、未走行の地域へのバス停の設置を一日も早くすすめるべきと考える。試行的にリフト付きミニバスを運行してはどうか。
答 平成23年度に2つの新路線整備を検討しており、より一層の充実を図っていく。



大長 雅美 議員（一問一答方式） 10年20年先を見据えた計画の推進

東浦町と連携し、愛知県へ新橋建設を働きかける

問 市民クラブとして数年前から平成大橋と衣浦大橋の間に、東浦町との新しい橋の建設を要望しているが、現状はどのように考えているか。
答 新橋の建設は、刈谷市都市計画マスタープランの中で、構想路線と位置付け、愛知県知立建設事務所長に要望するとともに、愛知県都市計画課への説明等行っているが、県の見解では現在の交通需要の必要量を充足しているという考えから、愛知県都市計画マスタープランには位置付けられていない。

問 今定例会に東浦町との定住自立圏の形成に関する協定書
**犬飼 博樹 議員（一問一答方式）
刈谷市を縦断する道路計画を早急に**
関係する各種機関等との協議を進め、工事に着手

問 (仮称)南北縦貫道路の計画について、平成23年度の市長の施政方針で、亀城公園から155号までの区間については早急に着手するように努めると言われたが、早急というのはどれぐらいのことと考えているか。
答 鉄道の横断工事に難しいところがあり、工事施工時間の制約も多く、効率も悪い面もあるため、かなりの年数を要すると思われる。前後の取りつけ道路等の整備も含め、最低でも10年近くかかると考えている。

**野村 武文 議員（一括質問一括答弁方式）
新たな保育園の建設を**
総合的な待機児童対策の中で検討

問 平成22年度の待機児童の状況、市内の認可外保育所及び企業内託児所の状況並びに利用料金はどうか。
答 平成22年度の待機児童は4月時点で5人、10月時点で10人。市内の認可外保育所は11ヶ所、定員数の合計410人で、児童数は平成23年2月現在で87人。市内の企業内託児所は8ヶ所、定員数317人で、平成23年2月現在で114人。認可外保育所の利用料は週5日の場合3歳未満児は月額42,500

問 平成22年度の待機児童の状況、市内の認可外保育所及び企業内託児所の状況並びに利用料金はどうか。
答 平成22年度の待機児童は4月時点で5人、10月時点で10人。市内の認可外保育所は11ヶ所、定員数の合計410人で、児童数は平成23年2月現在で87人。市内の企業内託児所は8ヶ所、定員数317人で、平成23年2月現在で114人。認可外保育所の利用料は週5日の場合3歳未満児は月額42,500

壁谷 信洋 議員（一問一答方式） 「はやぶさ」帰還カプセル特別公開事業

宇宙への夢を育み、ものづくりのまち刈谷をアピール

問 はやぶさプロジェクトは、日本の技術力の高さを世界にアピールしたものと考えるが、そのはやぶさの現物が見られる特別公開事業とはどのようなものか。
答 7年間60億kmにおよぶ宇宙の旅を終えた、小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」の石を持ち帰ったカプセルやパラシュートなどの展示、はやぶさプロジェクト関係者の記念講演会、プラネタリウムへの特別投影などを検討している。



はばたきでのプレイベントの様子

問 全国的にも刈谷市の理科教育は注目されるほど盛んだが、今回のはやぶさ公開事業を行う意義をどう捉えているか。
答 開館30周年を迎える中央

編集後記

厳しい寒さが続き、道行く人とのあいさつは「寒いねー」の言葉が始まるこの冬だったのではないのでしょうか。そんな寒さの中でも確実に春は訪れ、桜や菜の花が咲き乱れる季節に目を細め、迎えた春だったのではないのでしょうか。
▼さて、3月11日に東北地方を襲った大地震によって福島原子力発電所の事故により放射能漏れを引き起こす大惨事になってしまいました。岩手、宮城、福島各県の太平洋沖の住民は津波によって、家も田畑も、そして家族の命も流され、町は壊滅状態となる中で、原発の放射能漏れは、住民に途方もない苦しみを与えるものとなっています。
▼刈谷市議会は、直ちに被災者支援のために義援金を送りましたが、未だに家族の行方がわからぬ人も多くあります。胸は痛む思いです。
▼今度の東日本大震災で、市民のみなさんの頭をよぎったのは「明日は我が身か、他人事ではない」という思いだったのではないのでしょうか。
▼それは、この地域を必ず襲うと言われる東海大地震、東南海沖大地震が想定されるからです。その震源域は浜岡原発の直下と言われることも他人事ではない要素の一つに挙げられます。
▼家族の命まで奪われ、傷が癒えることはない被災地のみならず、人の思いに込めることは、震災から何を学び、活かしていくのかだと思えます。議会は、そのことを学び発展させていくために頑張りたいと思えます。お届ける市議会だよりが市民の皆さんとのかけはしになればと願っています。お気軽にご意見をお寄せください。
(議会広報委員会)